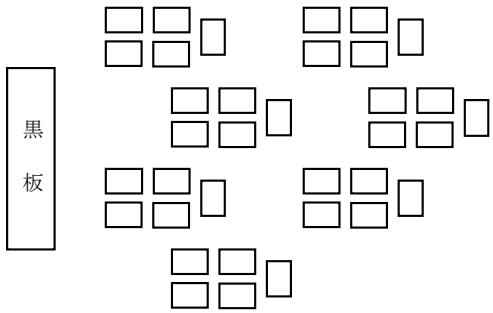
保育案１

No	4歳児：りす組	活動日 2005年　5月 20日（金）	指導者名	山田　花子

題　材　名	線のお散歩
活動主題　A	A：材料や技法との出会いや行為を楽しむ。　B：見立てて遊ぶ。 C：いのちのつながりを感じてあらわす。　D：おもいを伝える

ねらい	
・経験させたい材料（用具）や技法 ・楽しませたい活動（遊び） ・育てたい（発揮させたい）力 など	・ 絵の具で線を描く経験をさせる。 ・ 多色使って線を描くことを楽しむ。 ・ 多様な線の表情のちがいの面白さに気付く。

準備物	準備するべき材料・用具	・ 画用紙（四つ切り）白 ・ 絵の具（ポスターカラー） ・ 筆（太筆　１７号） ・ 雑巾 ・ 画板 ６色用意し、グループごとに４色使えるようにする。状況や子どもの希望に応じて色数を増やしても良い。	環境設定	

導入・支援のポイント	留意点
T「今日はおもしろいもの持ってきたんだ！」と言いつつ絵の具カップと筆を持ち出す。 S「絵の具だ～！」 T「この色は？」 S「黄色！」 ※少し絵の具の使い方を確認しておく。 ※ 保育者が画用紙に黄色の線を引きながら T「散歩は楽しいな、ほら！歩いた跡がついていくよ！」「ギザギザ線くんが出来たよ！」などと擬人化して示す。 ※ 二色目も同様に線の種類を変えて示す。「太っちょ線」とか・・・ T「楽しいな、おもしろいなぁ、もっともっとお友だちが来ると、もっと楽しいのになぁ・・・」 S「他の色もすればいい T「みんな、他の色の線君も連れてきてくれる？」と投げかける。	・ 導入後出来るだけすぐに活動に入れるように画用紙は画板に乗せて配置しておく。 ・ 絵の具がたくさんあることを最初に見せてしまわないで、あとでいっぱいある事を教える。 ・ 線の変化に興味が持てるように強調して示す。 ・ 二色目を示した後で、実は沢山の色があるんだよとグループごとに配る。 ・ 塗りたくり遊びにならないように、絵の具は濃いめに溶いておき、滲みにくくしておく。

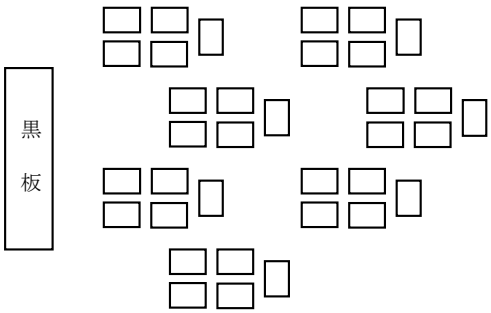
子どもの状態＆反省
・ ほとんどの子どもが線遊びを楽しめていたが、一部にやはり塗りたくりになってしまう子どもがいた。はじめから塗りたくりになる子どもは一人だけだったが、線遊びが高じて塗りたくりになってしまう子がいる。 ・ 逆に線遊びよりも花や動物などの絵を描く子どもも数人いるが、多色の絵の具を思い通りに使えているので経験があるのかも知れない。 ・ 絵の具を溶いておいたため、時間が経って絵の具が沈殿し、上部が水っぽくなってしまった。よく混ぜて渡すか、子どもにも混ぜて使うことを教える必要がある。

保育案２

No	3歳児：めろん組	活動日 2005年　5月 20日（金）	指導者名	山田　花子

題　材　名	お花を踏まないで！
活動主題　A	A：材料や技法との出会いや行為を楽しむ。　B：見立てて遊ぶ。 C：いのちのつながりを感じてあらわす。　D：おもいを伝える

ねらい	
・経験させたい材料（用具）や技法 ・楽しませたい活動（遊び） ・育てたい（発揮させたい）力 など	・ パスで線を描く経験をさせる。 ・ パスによる線描を楽しむ。 ・ 思い通りの線を描くことができるようになる。

準備物	準備するべき材料・用具	・ 画用紙（八つ切り）白 あらかじめ、ブタさんの顔と家の形を対角線の端に描いておき、さらにお花の絵を適当にちりばめて描いておく。 ・ パス（個人持ち） 使う色は子どもに任せる。 持ち替えも自由。	環境設定	

導入・支援のポイント	留意点
T「ブタさん、お家に帰るんだって、でもほら、綺麗なお花畑を通って帰らなくてはならないの。ブタさんね、お花を踏まないようにお家に帰れるかな？」 S「お花の間を通れば良いんだよ！」 S「よく見て踏まないようにすれば良い！」 T「できるかな？大丈夫かな･･･」 ※ 保育者がパスを一本持ち、線を描いていく。その際、わざとお花の上を通ってしまう。 S「だめー！！」　子どもたちからブーイングが出ると予測するので、子どもの表情を見ながらすすめる。 T「えー！みんな、どうすればいいか教えてよ！」	・ 花は、線を直線的に通すことができないようにちりばめておく。 ・ 「お花を踏まないように」という言葉かけで活動主題をつかめるか子どもの反応を注意する。 ・ どうすればいいのか、子どもが意見を言えるようにする。 ・ 保育者がわざと失敗してみせることで、子どもに「ブタさんにちゃんと教えてあげよう」という遊びへの意欲を引き出すようにする。 ・ あまり、説明的にならないようにし、導入後は子どもが線遊びをどのように楽しむか見守るようにする。

子どもの状態＆反省
・ 導入でわざと間違えたのが効果があったのか、ほとんどの子どもたちがお花を踏まないように意識して線を引こうとしていた。ただパスの線を描くのが楽しくて、途中からは線描に夢中になり画面をなぐりがきでいっぱいにする子どもが３分の１ほどいるが、それはそれで良い。 ・ 線描はそこそこにしてお花の中を色塗りする子ども。お花をひとつづつ囲んで幾子どもなど、その子なりの遊びを見つけているようだった。ほかに「お花を摘んで帰ろう」と投げかけてみるのも良いかも知れないと感じた。